

テーマ別研究発表 | 競技スポーツ研究部会：【課題A】競技スポーツをどのように豊かにするか

📅 2025年8月28日(木) 9:00 ~ 10:00 📍 1202教室(教育研究棟 1街区 2階 1202)

[2a401-03] 競技スポーツ研究部会【課題A】口頭発表④

座長:藤林 献明(中京大学)

9:00 ~ 9:20

[競技スポーツ-A-10]

女子100mハードルレース分析（測）

12秒台から18秒台を対象にして

*木村 加乃¹、後藤 悠太²、欠畑 岳³、磯 繁雄³ (1. 早稲田大学スポーツ科学研究科、2. 名城大学法学部、3. 早稲田大学スポーツ科学学術院)

9:20 ~ 9:40

[競技スポーツ-A-11]

全国高校総体陸上競技800mにおける通過順位および位置取りと最終順位の関係（コ）

*佐藤 公一郎¹、丹治 史弥²、杉田 正明³ (1. 東海大学体育学研究科、2. 東海大学体育学部、3. 日本体育大学体育学部)

9:40 ~ 10:00

[競技スポーツ-A-12]

空手組手競技大学生競技者を対象にした作戦意識とパフォーマンスの関係（測,コ）

*大徳 紘也¹、西山 哲成¹、大石 健二¹ (1. 日本体育大学)

テーマ別研究発表 | 競技スポーツ研究部会：【課題A】競技スポーツをどのように豊かにするか

📅 2025年8月28日(木) 9:00 ~ 10:00 📍 1202教室(教育研究棟 1街区 2階 1202)

[2a401-03] 競技スポーツ研究部会【課題A】口頭発表④

座長:藤林 献明(中京大学)

9:00 ~ 9:20

[競技スポーツ-A-10] 女子100mハードルレース分析 (測)

12秒台から18秒台を対象にして

*木村 加乃¹、後藤 悠太²、欠畑 岳³、磯 繁雄³ (1. 早稲田大学スポーツ科学研究科、2. 名城大学法学部、3. 早稲田大学スポーツ科学学術院)

I 緒言 女子100mハードルは、100mを速く走るスプリント能力やハードルを越えるためのハードリング技術が求められる競技であり、レース中の速度変化や歩数などが競技成績に影響をおよぼす。関連研究は多数存在するが、競技レベルごとの比較やレースパターンに着目した定量的分析は、今後さらに蓄積が求められる。本研究では、様々な競技レベル（12~18秒台）における女子100mハードル選手のレースパターンを分析・比較し、競技レベルの差を生む要因を明らかにする。II 方法 2000年~2024年までに開催された陸上競技大会での女子100mハードルのレースを対象に公的利用可能なインターネットブロードキャストから取得したレース動画を使用した。対象レースは計137レースとし、12秒台17名、13~18秒台20名であった。ハードルクリアランス後の接地から、次ハードルクリアランス後の接地までをワンサイクルと定義し、ワンサイクルにおけるランニングのみの区間とハードリングのみ区間の二区間を抽出した。取得したレース動画を基に歩数・所要時間のみを抽出した。1秒ごとに区切り（計7グループ）各ハードル区間ごとの所要時間の差を検証するために、一元配置分散分析により検証した。多重比較にはBonferroni法を用いた。III 結果と考察 12~18秒台の対象者におけるレースの経時的変化は、12・13秒台でH4-5、14秒台ではH2-3、15~18秒台ではH1-2の区間において最短タイムが出現した。最短タイム出現区間におけるランニングとハードリングの所要時間の相対割合は6:4であり、7つのグループ間でこの割合に有意な差は認められなかった。各サイクルでのランニングでの所要時間と歩数の一貫性が、競技レベルに与える影響が大きいことが示唆された。

テーマ別研究発表 | 競技スポーツ研究部会：【課題A】競技スポーツをどのように豊かにするか

2025年8月28日(木) 9:00 ~ 10:00 1202教室(教育研究棟 1街区 2階 1202)

[2a401-03] 競技スポーツ研究部会【課題A】口頭発表④

座長:藤林 献明(中京大学)

9:20 ~ 9:40

[競技スポーツ-A-11] 全国高校総体陸上競技800mにおける通過順位および位置取りと最終順位の関係 (コ)

*佐藤 公一郎¹、丹治 史弥²、杉田 正明³ (1. 東海大学体育学研究科、2. 東海大学体育学部、3. 日本体育大学体育学部)

【背景】陸上競技800m種目のある地点における通過順位と最終順位には正の相関関係があり、集団の前方で走行することの優位性が示されている。一方で、後方での走行は空気抵抗が減少し、疲労を抑えられる利点もある。レース中に内側か外側のレーンを走行することも、総走行距離や走者のペース調整の自由度に影響する。したがって、通過地点における単なる通過順位よりも集団における位置取りが最終順位に影響を及ぼすと推定される。【目的】陸上競技800mレース中の通過順位および位置取りと最終順位の間関係を明らかにすることを目的とする。【方法】2024年全国高校総体男子800mにおける予選、準決勝および決勝レースを撮影し、全てのレースを分析した。200m、400m および 600m 地点において、競技者の通過順位を読み取った。また、先頭走者からの距離と走行レーンから位置取りを算出した。【結果・考察】予選の通過順位および位置取りは200m($r=0.54$ および 0.47)、400m($r=0.48$ および 0.56)、600m($r=0.59$ および 0.48)の各地点において、いずれも最終順位と有意な正の相関関係($p<0.05$)が示された。これらの結果より、レース序盤から集団の前方に位置することが、最終順位を上位させる可能性が示唆された。先頭走者からの距離が短い走者ほど最終順位が上位になる傾向があり、600m 地点において先頭走者から6.2m以内に位置している場合、準決勝へ進出する可能性が高いことも示された。一方、準決勝および決勝は通過順位および位置取りのいずれも、600m地点のみ有意な正の相関関係が示された($r=0.58$ および 0.52 ; $p<0.05$)。以上より、準決勝および決勝は予選と比べて走者の実力が拮抗しており、上位の最終順位を確実に獲得するため、600m地点までに前方および内側へ位置する傾向があると考えられる。

テーマ別研究発表 | 競技スポーツ研究部会：【課題A】競技スポーツをどのように豊かにするか

2025年8月28日(木) 9:00 ~ 10:00 1202教室(教育研究棟 1街区 2階 1202)

[2a401-03] 競技スポーツ研究部会【課題A】口頭発表④

座長:藤林 献明(中京大学)

9:40 ~ 10:00

[競技スポーツ-A-12] 空手組手競技大学生競技者を対象にした作戦意識とパフォーマンスの関係（測,コ）*大徳 紘也¹、西山 哲成¹、大石 健二¹ (1. 日本体育大学)

スポーツのコーチング実践において、戦略・作戦・戦術という言葉が広く使用されている。スポーツにおける戦術や作戦の意味について、「1チームが各試合において勝利の達成を志向し、攻撃、防御の戦術行動を、意図的、計画的に展開させる仕方、進め方」と示されている（稲垣ら、1985）。勝利を獲得するためには攻撃、防御技術の精度を高めるだけではなく、技術の組み合わせを考えた事前の作戦計画が重要と考えられる。本研究では空手組手競技における事前の作戦意識と試合で実行されたパフォーマンス内容の一致と不一致の様態を調査し、作戦立案に関するコーチング実践に有効な知見獲得を目的とした。分析対象は大学空手道部に所属する組手競技者15名とした。公式大会前日に組手競技の作戦に関する意識調査をオンラインアンケートにより実施した。質問内容は試合局面別に意識する戦術項目とし、試合序盤、中盤、終盤の3局面について47項目を設定した。回答は5件法を用いて行い、意識の度合いについて回答を求めた。試合内容の分析は大会公式ライブ配信映像を用いて行い、作戦意識の調査において意識度の高い項目であった得失点数、先取点獲得数、仕掛技数、試合残り時間帯に関連する7項目を分析した。本研究結果、試合序盤の先取点獲得について、意識度5の回答が60.0%以上意識される結果であったが、勝敗に関係なく先取点獲得は11.0%未満と低い結果であった。試合中盤並びに終盤の失点防止について、意識度5の回答がそれぞれ66.7%以上意識する結果が確認され、勝利時における失点が敗戦時よりも25.5~29.8%低い結果であった。作戦意識とパフォーマンス分析の結果を相互確認することにより、作戦に対するパフォーマンススキルの達成度を客観的に評価できることが考えられ、選手の特性に合わせた作戦又はパフォーマンスへのコーチング実践のための情報となることが考えられた。